

〔曲名〕 Mandolinata

マンドリナータ

〔曲種〕

〔作曲者〕 Erm.Carosio

エルメネジルド カロシオ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者は1866年イタリア北部のアレッサンドリアに生まれトリノーに定住した作曲家。

音楽を学んでから広い範囲に作曲活動を続けピアノ又は小管弦楽の為の舞曲、歌曲は広く知られている。

主な作品は

Guarda il ch'it ciche (E.Testa 台詞ピエモンテ地方語による二幕のレヴュー、1915年7月トリノーの Michelotti公園劇場上演)

La Cagnotte (Giovanni Drovetti台本、三幕の喜歌劇)

この外にマンドリン合奏曲に数多の佳曲を作曲、ギター独奏曲に至っては無数にあり、之等はイタリア各地で出版せられた。

1911年11月トリノーで刊行されたマンドリン楽譜誌“IL Mandolinista” (月二回刊行)の主幹となり、自作を中心に斯楽を啓蒙した。

更に飽き足らず1905年にはNuova Musicaと題して、マンドリン・マンドラ・ギター三重奏の形で自家出版し、

之だけでも50曲に垂んとしている。

19世紀の終りから20世紀の初頭にかけて、漸くマンドリン音楽が開花せんとする時に当って最も活躍した一人であるが、

1928年5月18日この地に逝いた。

小舞曲の類が多く編成も小規模を為、今日殆んど上演されないが、本マンドリナータは好箇の小品で当時の

イタリアマンドリン合奏曲の典型的なスタイルで以前は我が国でも親しまれた。

1972年5月1日発行

イタリアマンドリン百曲選第15集より